

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

「家庭・地域・学校協議会」の構成【16名】

- PTA 役員【3名】・・・PTA 会長，副会長（2名）
- 瓜生地区地域づくり協議会【6名】・・・協議会会長，各部部长（4名），公民館長
- 各種団体長【4名】・・・区長会長，民生児童委員長，同窓会長，老人クラブ会長
- 学校【3名】・・・校長，教頭，教務

※地域コーディネーター(3名)

瓜生公民館長
農楽舎職員
はなひな農園経営者

(2) 協議会の内容

- ① 第1回協議会（6月）
 - ・スクールプラン、学校評価計画について
 - ・学校，児童，地域等についての情報交換，意見交換
- ② 第2回協議会（12月）
 - ・学校評価の報告について
 - ・学校，児童，地域等についての情報交換

(3) 協議会における成果と課題

スクールプランを伝え、子どもたちをよりよく育てるために協議を図る重要な場となっている。特に、意見交換の中で、学校と地域での子どもの様子について情報を共有することができている。課題が明確となったり、学校改善への助言や協力をいただいたりする重要な機会となっている。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

ふるさと瓜生地域にゆかりのある体験・見学活動を通して、ふるさとの良さや課題に気づき、ふるさとをさらに良くしていこうとする態度・実践力を育む。

(2) 活動の実績

①「みんなで作ろう 安全でおいしいお米」（5年生）

- 講師を招いての米作りについての学習
講師の方からこめ作りについて話を聴き、「無農薬・無肥料での栽培」に意欲を示し、学校田で栽培を行うことにした。
- 除草機を使用しての水田管理と天日干し
無農薬での栽培のため除草作業に取り組む必要性を学び、汗をかきながらの除草作業を体験した。また、天日でじっくり乾燥させることによってお米の旨味が増すことを教わり、稲を藁で束ねて天日干しにも挑戦した。安全なお米を栽培するためには手間のかかる作業に取り組まなければならないことを体験から学んだ。
- 無農薬もち米の販売
米の収穫後、児童が話し合い、苦労して育てた安全でおいしいお米を地域の方や家族へ販売することにした。地域にあるスーパーマーケットで販売活動を行った。お客さんに、米の安全性や味をアピールし、コミュニケーションをとりながら米を完売することができた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- 5年生が取り組んだ『無農薬・無肥料米』の活動やもちつき体験において、農楽舎職員の山本さんを中心に、米作りのノウハウを教えていただいたり、もちつきのやり方を指導していただいたりした。
- 瓜生公民館長の橋本さんは農業の経験が豊富であることから、米作りに関する直接的な助言を受けた。
- はなひな農園経営者の杉森さんには、ビニールハウスで水耕栽培を行っているねぎの収穫体験をさせていただいたり、野菜を育てる苦労や喜びについて教えていただいたりした。
- 学習の成果を学習発表会（令和2年2月22日実施）で発表する際、地域コーディネーターをお招きし、発表を見てもらうとともに、学校との意見交換を行った。

3 成果と課題

<成果>

- ・無農薬・無肥料だからこそ米のおいしさと共に栽培の苦労を実感することができた。
- ・自分たちで苦労して栽培したお米を販売することから、積極的に地域の方とコミュニケーションをとることができた。
- ・瓜生地域は、歴史的に価値のある地域だったのだということを、古墳の見学等を通して学ぶことができ、児童は地域への誇りを持つことができた。
- ・学習発表会で発信することで、保護者からも「瓜生地区の歴史的価値を改めて実感した。」と感想が届くなど、地域の方や保護者への啓発にもつながった。

<課題>

- ・夏休み中における子どもたちの水田の管理については、熱中症の心配などもあり困難である。手作業での田植えや稲刈りは重労働であり、ボランティアに参加してくださる地域の方が高齢の場合負担が大きい。